長野県県民文化会館 ウィーン楽友協会姉妹提携事業

長野フィルハーモニー管弦楽団

NAGANO PHILHARMONIC ORCHESTRA

演奏会

指揮
ゲオルク・マルク
GEORG MARK

チェロ
ベンツェ・テメシュヴァリ
BENCE TEMESVÁRI

ヴァイオリン
ヘルムート・ラッキンガー
HELMUT LACKINGER

ヴィオラ
パウル・ラベック
PAUL RABECK

ヴァイオリン
ビルギット・コーラ
BIRGIT KOLAR

ヨナス・ルードナー
ホルン
JONAS RUDNER

Program

【第１部】

シューベルト：劇付随音楽『ロザムンデ』序曲
Schubert_Rosamunde Op.26 "Overture"
演奏：長野県高等学校選抜オーケストラ

チャイコフスキー：ロココの主題による変奏曲
Tchaikovsky_Variations On a Rococo Theme Op.33
チェロ独奏：ベンツェ・テメシュヴァリ

モーツァルト：交響曲第 35 番ニ長調『ハフナー』
Mozart_Symphony No.35 in D major K.385 " Haffner"

【第２部】 ヨハン・シュトラウス特集 *Special on Johann Strauss II*

喜歌劇『くるまば草』序曲
Waldmeister Op.468 "Overture"

エジプト行進曲
Egyptischer-Marsch

ポルカ・シュネル「狩り」
Auf der Jagd,Polka schnell Op.373

フランス風ポルカ「クラプフェンの森で」
Im Krapfenwaldl,Polka francaise, Op.336

歌劇『騎士パスマン』より「チャルダッシュ」
Csárdás from Ritter Pásmán Op.441

皇帝円舞曲
Kaiser-Walzer Op.437

ポルカ・シュネル「雷鳴と稲妻」
Unter Donner und Blitz,Polka schnell Op.324

管弦楽
長野フィルハーモニー管弦楽団
長野県高等学校選抜オーケストラ

2025. 9/15(月) 開演／14:00 開場／13:00

会場／ホクト文化ホール 大ホール

チケット料金	一般：1,500円　高校生以下：500円
プレイガイド	ホクト文化ホール窓口 https://p-ticket.jp/naganobunka ▶
問い合わせ先	ホクト文化ホール TEL. 026-226-0008

■ 主催：一般財団法人長野県文化振興事業団・長野フィルハーモニー管弦楽団　■ 共催：長野県・長野県教育委員会

Profile 出演者プロフィール

ゲオルク・マルク（指揮） *GEORG MARK, Conductor*

ザルツブルク出身。ウィーン市立音楽院にて指揮とヴァイオリンを専攻し、同時にウィーン大学にて音楽学、哲学と心理学を学ぶ。
世界各国にて指揮活動を行い、これまでに読売日本交響楽団、プラハ放送交響楽団、ウィーン室内管弦楽団等と共演。1991年から2006年まで、モスクワ放送局チャイコフスキー交響楽団の第一客演指揮者を務めた。ウィーン音楽院大学指揮専攻科教授として教育活動にも従事し、現代の演奏技法とウィーンの伝統との融合を目指している。この姉妹提携事業には1998年から参加し2004年の第九演奏会でも指揮者を務めた。

ビルギット・コーラ（ヴァイオリン） *BIRGIT KOLAR, Violin*

オーストリアのヴァイトホーフェン/イブス出身。ウィーン国立音楽大学にてライナー・キュッヒル、イェラ・シュピトコーヴァの両氏に師事。1991年メニューイン国際コンクール入賞。ソリストおよび室内楽奏者として、ヨーロッパ各国、南米、日本などで演奏活動を行う。1999年から2008年、バイエルン放送交響楽団のメンバーと共にミュンヘン弦楽四重奏団を設立し、第1ヴァイオリン奏者を務める。2008年にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とウィーン交響楽団のメンバーで構成されたウィーン・セラフィン・クァルテットを設立。これまでにブルックナー管弦楽団、ウィーン交響楽団、バイエルン放送交響楽団他、各地のオーケストラのコンサートミストレスを務める。現在の使用楽器は、オーストリア・ナショナル銀行所蔵のクレモナ製カルロ・ベルゴンツィ（1723年製）。

ヘルムート・ラッキンガー（ヴァイオリン） *HELMUT LACKINGER, Violin*

メードリングに生まれたヘルムート・ラッキンガーは、10歳で初めてヴァイオリンのレッスンを受ける。その後、ウィーン音楽院で学び、アントン・シュトラカ、アルフレッド・シュターらのレッスンを受けた。在学中、すでにウィーン放送交響楽団、ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の代役を務めた。1985年にオーストリア連邦劇場の舞台オーケストラと契約した後、1988年にウィーン交響楽団の第2ヴァイオリン・セクションに加わった。室内楽奏者としても、さまざまな楽器の組み合わせで数多くのアンサンブルに参加している。1998年よりウィーン・シンフォニア・シュランメルンのメンバーとして、また1996年より日本で講師、ソリスト、室内楽奏者として活躍している。

パウル・ラベック（ヴィオラ） *PAUL RABECK, Viola*

1984年ウィーン生まれ。5歳でヴァイオリンのレッスンを始める。ウィーン音楽高校を経て、ヴァイオリンをミヒャエル・シュニッツラー、ヴェロニカ・ゴットフリート、クララ・フィーダー、ペーター・シュマイヤーに師事。2005年にヴィオラに転向し、2011年に演奏家コースを優秀な成績で修了。また、ブルーノ・ユランナ、タベア・ツィンマーマン、ルボミール・マリー、オグニアン・スタンチェフ、モートン・カールセンのマスタークラスを数多く受講して研鑽を深め、室内楽だけでなく、レコーディングやクロスオーバー・プロジェクトにも頻繁に参加して音楽の幅を広げている。2009年よりORFウィーン放送交響楽団オーケストラ・アカデミーに所属し、2011年3月よりヴィオラ奏者となる。2017年10月よりウィーン交響楽団ヴィオラ奏者。

ベンツェ・テメシュヴァリ（チェロ） *BENCE TEMESVÁRI, Violincello*

1999年ブダペスト生まれ。6歳でチェロを始める。2015年よりウィーン音楽・舞台芸術大学でロベルト・ナギー教授、ペーター・ソモダリ教授、イシュトヴァーン・ヴァールダイ教授に師事。2018年にはハンガリーのダヴィッド・ポッパー・コンクールで第1位、スロヴァキアの「Talents for Europe」で2018年に第2位、2019年にグランプリ、2019年にはチェコ共和国のマーラー・コンクールで第1位を受賞している。2020年、ウィーンで開催された「ダヌビア・タレンツ国際コンクール」で優勝、トレヴィーゾ国際コンクールで優勝。2021年にはブルガリアのアレグラ国際コンクールで第3位、2023年にはウィーンのカネレスコンクールで第1位を獲得した。2021年にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のアカデミーで2年間の奨学金を獲得。現在は、ウィーン交響楽団第２首席チェロ奏者を務める。

ヨナス・ルードナー（ホルン） *JONAS RUDNER, Horn*

1982年ハライン生まれ。5歳でピアノを始め、10歳でヴォルフガング・シュルツのもとでフルートを学び、2002年からゲルトルート・シュルツのもとで声楽のレッスンを始めた。2007年からオーストリア・トーンキュンストラー管弦楽団の首席ホルン奏者を務める。ウィーン市立音楽芸術大学でフォルカー・アルトマンのもとで学び、のちにウィーン音楽大学でローランド・ベルガーとトーマス・イェブストルのもとで学ぶ。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団やウィーン交響楽団などのオーケストラで定期的に演奏。ソロ活動として、オーストラリア室内管弦楽団、香港祝祭管弦楽団、ヴェルビエ祝祭管弦楽団などに出演。さまざまな編成で室内楽奏者としても定期的に演奏している。